

# 悪性を示唆する特徴を有する膵管内乳頭粘液性腫瘍の予後に関する多施設共同 観察研究

## はじめに

神戸大学医学部附属病院消化器内科及び共同研究機関では、膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の悪性化の指標(High risk stigmata)を有する患者さん対象とした、予後を調査する多施設共同研究を実施しております。内容については下記のとおりとなっております。

尚、この研究についてご質問等ございましたら、最後に記載しております[問い合わせ窓口]までご連絡ください。

## 1. 研究概要および利用目的

IPMNは膵臓に発生する腫瘍で、良性の腺腫から上皮内癌(早期の癌)を経て浸潤癌になることが知られています。IPMNでは嚢胞内に結節があることや、主膵管径が10mm以上であることは、悪性化の指標(High risk stigmata)であるとされており、基本的には外科手術の適応と考えられています。膵臓の外科手術の成績は向上しているものの、特に高齢の患者さんや重い基礎疾患をお持ちの患者さんにとっては、いまだに負担の大きい治療であり、手術すべきかどうか判断に迷うことも少なくありません。一方で、High risk stigmataを有するIPMNを切除しない場合の病気の進行の速度や予後については、あまり知られていません。そこで、2011年11月1日～2019年3月31日のあいだにHigh risk stigmataを有するIPMNと診断された患者さんのデータをカルテから収集し、診断後の予後を調べる研究を計画しました。

## 2. 研究期間

この研究は、研究機関の長による研究実施許可日から2026年3月31日まで行う予定です。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

- 1) 患者基本情報:年齢、性別、BMI、飲酒、喫煙、基礎疾患、既往歴
- 2) 血液検査(CEA、CA19-9)
- 3) 画像所見:CT、MRI、EUSにおける以下の所見(主膵管径、結節高、嚢胞径、造影される壁肥厚、局所リンパ節腫大、尾側膵萎縮を伴う主膵管狭窄)
- 4) 病理結果(悪性度、Stage、粘液形質)
- 5) 手術成績(術式、偶発症)
- 6) 患者の予後に関する情報(予後、死亡の場合その理由)

## 4. 研究機関

この研究は以下の研究機関と責任者のもとで実施いたします。

### 代表研究機関

神戸大学医学部附属病院 (研究代表者:酒井 新、機関長:真庭 謙昌)

### 共同研究機関

兵庫医科大学病院 (研究責任者:塩見英之、機関長:池内 浩基)

北播磨総合医療センター (研究責任者:家本 孝雄、機関長:西村 善博)